

地域の安全と安心のために 防災訓練で深まる人と人のつながり

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合 南三陸消防署長 **錦部照夫さん**

南三陸町は、47年前のチリ地震津波という災害の歴史があり、防災への関心が高い町です。毎年5月24日は津波防災訓練の日として、早朝から5000人以上の住民の方々が参加する全町あげてのイベントになりました。当日は中学生がボランティア活動としてリヤカーで救急患者を搬送するなど、住民のアイデアによる訓練が行われ、自主防災の組織づくりがすすんでいます。近年は津波体験者も少なくなり、防災意識の風化が懸念されていますが、パソコンによる手づくり紙芝居で出前防災講座を開催するなど、署員一丸となって防災意識の継承に努めています。今後は防潮水門をモニターで監視して遠隔操作できるシステムや、津波避難誘導標識の整備などに積極的に取り組み、防災に強いまちづくりを一層推進していきます。



2000年余り、地域に伝わってきた 旧正月行事をずっと大切にしていきたい

寄木ささよ保存会

「...お船玉あらよう 取らせる魚授け
たまいやー...へんややへんやや」歌津
寄木浜に伝わる「ささよ」は、小学1年か
ら中学3年までの男子が参加し、大漁旗
を先頭に各戸を廻り、大漁と航海安全を
願う伝統行事です。今年は僕たち10名で
46戸を4時間かけて廻り、「ささよ唄」を
唄い込みます。家々で頂いた祝儀はみ
んなで分配します。船頭が船子に漁獲
高を分けることをまねた、こうした習慣

を身に付けながら大人への仲間入りを
するのだそうです。今年81歳の保存会
会長さんに昔の話なども聞きながら、教
えていただいています。経験年数の少な
い小学生は喉が痛くなったり、雪道で滑
つたりすることもあります。先輩に負
けないように大きな声で歌えるよう、が
んばって練習をしています。
(平成19年船頭役 島山登太さん)



子育てにがんばるお母さんを 地域力で支援していきたい

南三陸町子育て支援センター主任保育士 **三浦房江さん**

豊かな自然に恵まれた南三陸町でも少子化、核家族化が進み、子どもを健やかに育てる社会環境や子育て意識が変化しています。近所付き合いや人間関係が希薄になる中、子育てに戸惑うお母さんたちへの支援のため、1998年に子育て支援センターが開設されました。地区の保育所や公民館を拠点に、子育ての相談から運動会の開催、サークル活動の支援、栄養士や保健師と協力しての子育てトークなど、活動は年間を通じて多彩です。ボランティアの地域子ども見守り隊や児童相談員、幼保交流会と連携しながら、町ぐるみで子育て、子育て、そんな環境づくり・関係づくりに取り組んでいます。親子がいっしょに元気になる、この町で子育てしたい、そう思える南三陸町にしていきたいですね。



菊花ブランド“黄金郷”が 明日をひらく力になるはず

黄金菊栽培農家 **及川誠司さん**

今から26年前に、南三陸町で産業として菊づくりをはじめたのが父でした。水田や葉タバコ栽培より農作業の負担が少なく、高齢化対策にもなる転作事業として注目を集めました。私は小さい頃から、いずれ自分は後継者になるだろうなと意識はしていましたが、父が急逝し、20歳から電照菊の栽培に取り組むことになりました。菊は仏花として一年を通して市場性のある花です。ハウスでは天気と気温を見ながら、冷夏や暖冬に気を配り、天幕の開閉で日照時間をコントロールします。そして出荷の2ヵ月前から夜間に電球の明かりを当てて開花調整を行い、春彼岸とお盆、秋彼岸をはじめとして、年間の需要期の出荷を可能にしました。ドイツ・シュツトガルトでの国際園芸博覧会(1993年)では、町の輪菊ブランド“黄金郷”がグランプリを受賞。現在、JA南三陸の47戸で栽培しており、年間2億円の生産高に達しています。ブランド名だけに頼らず、二層の品質アップのために先進地への研修や技術向上に、組合員一丸となって取り組んでいます。



おいしさと美しさを知ってほしい 観光漁業という 新しい海の魅力

志津川町漁業協同組合 管理課長兼指導課長 **阿部富士夫さん**

南三陸町といえば、ブランドになったギンザケをはじめ、タコ、カキ、ホタテ、ワカメなどおいしい、自慢の海があります。1976年に県内初の養殖に成功したギンザケは全国の市場に定着し、大手スーパーでも依然高い人気を誇ります。そしてこの海が与えてくれたもう一つの恵みは、透明な美しさです。ダンゴウオなど志津川湾だけで見られる海中生物などをダイビング体験で楽しんでいたことが、漁協と町と民間が協力し合いダイビング事業を開始しました。きれいに澄んだ海中を泳ぎ、おいしい魚介を味わってもらえば、漁業振興にもつながることでしょう。近年は、アワビの餌となる海藻群生が姿を消す、磯焼け現象の原因調査など、海の大切な資源や環境を守るための活動にも積極的に取り組んでいます。



Chrysanthemums named “Ogonkyo” (El Dorado) cultivated in the town, attract nationwide attention as one of the Minamisanriku brand names. In 1993, the high-quality chrysanthemums received the grand prix at the Horticulture Exhibition in Stuttgart, Germany. Fisheries and tourism here collaborated and appear as a new business that conveys the taste of seafood and beauty of the sea to people outside the town in a new field of “tourist fishery”.